

2023 年度事業計画・予算

「Change&Challenge」第2章

“Be Precious ! Be Prestigious !” Vol.final

2023 年 3 月 28 日

学校法人森ノ宮医療学園

I.事業方針・主要事業

【学園全体方針】

- 第2期中期計画の最終年になることから、「関西圏トップ」の実現をより強固にする一方で、次の第3期中期計画に向けての質的向上、学生増対応や「関西圏トップ」のための戦略的事業以外は、支出面において2022年度比「経費支出の削減」を目指す。
- 大学附属大阪ベイクリニック、緑橋施術所（鍼灸・柔整）は新たなスタート、展開となったことを踏まえ、より理念に沿った運営を目指す。

【大学ユニット】

- 2023年度は第二期中期計画最終年度であり、「関西圏トップ」の実現をより強固にすべく、また社会認知度の向上を目指して各施策に取り組み、関西屈指の医療系総合大学としてのプレゼンスを確固たるものとする。
 - 教育力・研究力のさらなる深化・継続的発展を目指し、教職連携による積極的なチャレンジを続ける。
 - 大学知による地域貢献・医療業界貢献・社会連携活動を推進し積極的に発信する。
 - 募集広報・大学広報両面で、広報手法の強化を図る。
 - 財政基盤を安定させるべく、適切な経費削減と、各部署別収支を意識した教学部門運営を実践する。
-
- 2024年度言語聴覚学科の開設準備及び新校舎の建築
 - 学部再編を最大限利用した魅力的な教育・研究プログラムの策定
 - IPE センター新設による IPE プログラムの深化・刷新と、IPE 関連事業としてシミュレーションセンター構築に向けた検討
 - 入学試験の質向上と社会状況にマッチした手法の検討
 - 研究の質向上と経営的側面の改善を目指した大学院の充実

- 大学附属ペイクリニックによる地域貢献、またクリニックと健康管理センター連携による実習前学生健康管理の充実や学生・教職員の健康増進の展開
- 社会的認知度の向上と募集力強化を目指した、大学 TVCM 等様々な広報手法の展開

【専門学校ユニット】

- 安定した国家試験合格率の維持、教育成果の可視化に取り組むことにより募集力向上を図る。
- 国家試験合格率をあげていくために、入学者の状況把握を十分に行ったうえでの教育内容の見直し、1 年次から 3 年次かけての積み上げ教育。3 年生での成績不良者対応の見直し
- 他校にはない本校の教育内容の取組みに対して、受験生・在校生に伝わるよう、教育内容の可視化を実施。
- 本校の特色を活かした ICT 教育の確立
- 施術所との密な連携による臨床実習の充実
- 今までの慣例にとらわれない教育内容のブラッシュアップ
- 業務内容の効率化による経費の見直し

【WLS ユニット】

- 初めての介護福祉士国家試験で留学生の合格者数としては日本一となる等、WLS が目指す「日本語・介護 4 年一貫教育」は着実に成果を上げている。
- しかしながら、多様な国籍の留学生を私生活も含めて管理・支援する事は予想以上に困難であり、教職員の負担が甚だしいだけでなく、収支的にもなかなか黒字化が見えない状況が続いている。
- このため、日本語学科・介護福祉学科それぞれのカリキュラムの内容や時期を 4 年一貫養育の視点から再整理するとともに、特に業務負担の大きい、入国・滞在支援（送迎、口座開設、ビザ申請支援等）、寮管理、学納金管理等について徹底した外部化や自動化を進める。

【マネジメント・ユニット（法人本部）】

- 2022 年度にスタートさせた「関西圏トップ」をより確実にするための大型投資計画（「新投資計画」および「新資金調達計画」）を継続する。
- WLS および関連事業（寮、派遣、合同会社、協同組合）については、改めて収支見通しやリスク分析等を行い、その結果次第では事業中止も含めた抜本的な方向性を再設定する。
- 高等教育機関においての政府の施策、修学支援制度の「機関要件の厳格化」が新たに公表されつつある中で、本学園は、先行投資、集中投資のための融資借入の利息を含めての返済支出、また経常収支差額の 3 年連続マイナスは回避すべく、全体の収入増施策、経常支出費用の牽制は喫緊の課題であることを念頭に、全学的な意識共有が可能となる情報共有と提供に注力する。
- 上記等を踏まえつつ、2024 年度からスタートする次期中期計画（5 か年計画）を策定する。

<「新投資計画」の概要と進捗状況>

番号	件名	金額（百万：税抜）	累計	内容	想定効果	進捗状況
①	日本コムシス森ノ宮ビル購入	370,000,000	370,000,000	解体後専門学校屋外実習スペースに	募集力堅持	完了
②	同解体、整地	120,000,000	490,000,000			2023年度整地予定
③	大学西棟改修	354,000,000	844,000,000	附属クリニック設置（緑橋から移転）	募集力強化、医業収入増加	完了
④	緑橋ビル改修	50,000,000	894,000,000	附属クリニック設置（上記）後改修	知名度アップ	具体案検討中
⑤	大学新棟建設	2,286,090,000	3,180,090,000	新学科用新棟建設	募集力強化、学生増（40名/4=160人）→開設5年目以降：収入+2.5億/年（≒165万×160人）	2024年2月末竣工予定

<次期中期計画工程案>

西暦		202303	202304	202305	202306	202307	202308	202309	202310	202311	202312	202401	202402	202403	202404	202405	202406
1	現中計			成果報告			第1回進捗報告				2023第2回進捗、					総括	公表
2	2023事業計画・予算										次期中計&2024事業計画・予算ヒアリング					決算	
3	次期中計（2024～2028）	基本フレーム（基本目標、方向性等）検討【学園経質会議】		基本フレーム通知			部門・部署素案							学内リリース			
4	2024事業計画・予算																
	機関決定			理事会・評議員会			理事会						理事会	理事会・評議委員会		理事会・評議委員会	

Ⅱ.財務方針・予算概要

1. 財務方針

- 高等教育機関の政府の施策、修学支援制度の「機関要件の厳格化」が新たに公表されつつある中で、本学園は、先行投資、集中投資を実施した。今年度は減価償却費、借入金返済支出が増加するが経常収支差額の黒字を確保すべく、学費の改定も含め、全体の収入増施策、支出費用の牽制は重要課題との認識の上に、全学的な財務情報の共有と提供に注力する。
- 資産運用は引き続き見送る。

2. 2023 年度の予算概要

事業活動収支 (単位：千円)				
費目		R5 (2023) 年度予算	R4 (2022) 前年度	増減
教育活動収入	①合計	4,865,390	4,690,894	174,496
	②内、学生生徒等納付金収入	4,128,142	4,014,318	113,824
	③内、経常費補助金収入	395,000	407,000	▲ 12,000
教育活動支出	④人件費	2,471,362	2,340,945	130,417
	⑤教育研究経費	1,756,459	1,727,455	29,004
	⑥内（教）減価償却額	474,000	467,816	6,184
	⑦管理経費	714,877	679,202	35,675
	⑧内（管）減価償却額	47,050	49,897	▲ 2,847
⑨教育活動収支差額（教育活動収入－教育活動支出）		▲ 77,308	▲ 56,707	▲ 20,601
⑩教育活動外収入		0		0
教育活動外支出	⑪借入金等利息	29,218	14,521	14,697
⑫教育活動外収支差額（⑩－⑪）		▲ 29,218	▲ 14,521	▲ 14,697
⑬経常収支差額（⑨＋⑫）		▲ 106,526	▲ 71,228	▲ 35,298
（参考）なお、資金収支（CF）上で事業活動収支上に現れない以下の資金の増減があります				
⑭（CF）資金増加科目	借入金収入	2,500,000	100,000	2,400,000
	非支出的資金（減価償却費）	521,050	517,713	3,337
⑮（CF）資金減少科目	借入金返済支出	207,754	211,132	▲ 3,378
	施設関係支出	2,535,330	618,450	1,916,880
	設備関係支出	193,607	94,679	98,928
⑯（CF）資金増減（⑬＋⑭－⑮）		▲ 22,167		

前提条件		年度/百万円 上：和暦、下：西暦	6	7	8	9	10	11	12	17	22
			24	25	26	27	28	29	30	35	40
WLS2023年度末閉鎖（2022補正額を控除、人件費のみママ）		トピック	・大学診療放射線補助金320人 ・WLS閉鎖 ・大学言語聴覚1年目40人 ・言語聴覚教員入職	・大学言語聴覚2年目40人	・大学言語聴覚3年目40人	・言語聴覚4年目40人（完成）	・言語聴覚補助金160人	人件費比率固定			
7	本来収入	借入や資産運用利益を含まない本来の収入	4,689	4,754	4,819	4,883	4,902	4,902	4,902	4,902	4,902
15	本来支出	原価償却や借入返済を含まない本来の支出	4,265	4,339	4,413	4,489	4,549	4,549	4,549	4,549	4,549
16	本来収支	本来事業の収支	424	415	406	395	354	354	354	354	354
28	その他収支	既借入金返済等	-279	-271	-269	-268	-264	-266	-267	-217	-11
29	現実収支	「本来収支」＋「その他収支」	145	145	136	126	90	88	87	136	343
30	投資支出	「投資計画」による新規投資	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32	新規借入等	「資金調達計画」による新規借入等									
33	新規借入等返済		19	158	156	155	154	153	152	147	142
36	当期総収支	新規借入やその返済等を含めた総収支	126	-13	-20	-29	-64	-66	-65	-10	202
37	【期初】現預金残高		2,458	2,584	2,572	2,551	2,523	2,458	2,393	2,237	2,585
38	【期末】現預金残高	最低20億、20年後目標60億（現資産80億＋新規20億＝100億X自己資金80％＝80億X2/3≒53億＋）	2,584	2,572	2,551	2,523	2,458	2,393	2,328	2,227	2,787
41	借入残高		5,632	5,236	4,840	4,443	4,050	3,654	3,255	1,458	278
43	減価償却		600	600	600	600	600	600	600	600	600
就学支援制度機関要件	経常収支	36-32+30+（14+22①+33②）-43	-135	-141	-149	-158	-196	-194	-192	-182	-174
	運用資産－外部負債	3 8－41	-3,048	-2,664	-2,288	-1,921	-1,592	-1,261	-927	769	2,509

Ⅲ. 計画の管理

(1) 「成果報告会」における確認

毎年度期初に行っている部署別の「成果報告会」で、前年度の実績を確認しつつ、適宜、事業計画の追加修正を行う（2022年4月1日付組織改編はこの時点で反映する）。

(2) 4か月ごとの進捗管理

4か月ごとに部署別事業計画の進捗状況を把握するとともに、中期計画自体の見直しも含めて必要な対応を講じ、理事会に報告する。

(3) 中期財務見通しの適宜更新

月次の資金繰報告・予実管理結果を中期財務見通しに反映し、事業の進捗状況と併せて、適宜、理事会に報告する。

以上